# 私が関わった情報システム開発プロジェクト

## 情報システム開発プロジェクトの概要

損害保険会社Ａ社はインターネットでの自動車保険や傷害保険などを販売している。市場のがんや先進医療に対する補償のニーズにこたえるため、このたび医療保険に新たに商品を増やすことになった。その際に今後の市場のニーズに迅速に対応できるように、汎用機で構築された現行の医療保険向けシステムを、オープン系のＷｅｂシステムとして再構築することとなった。当医療保険再構築プロジェクトを情報システム開発会社であるＢ社が受注し、私がプロジェクトマネージャに任命された。

## プロジェクトで採用した取組

Ｗｅｂアプリケーション用のフレームワークＦを採用し、プログラミング、デバッグにおける生産性の向上を目指した。

# 取組の実施結果について

評価を行うには、取組を採用した目的を踏まえて、プロジェクトの計画時に適切な評価項目を設定を定め、評価に必要なデータを収集する仕組みが不可欠である。

## 私が設定した評価の視点

私は以下の２つの視点を設定した。

1. フレームワークＦを利用した開発を行う前提での体制の妥当性
2. フレームワークＦを利用した開発を行う前提でのＷＢＳの妥当性

## 評価項目及び評価を行うために収集したデータ

1. 生産性を評価するために、フレームワークＦの習熟、プログラミング、デバッグにかかった工数、開発したステップ数を収集した。
2. 品質を評価するために、結合テストでのバグ密度を収集した。

## 評価方法と評価結果

1. 生産性を評価するために、総ステップ数と総工数から生産性を算出し、過去の生産性と比較する。比較した結果、特定のプロジェクトを除き、生産性はあがっていた。
2. 総バグ数と総規模からバグ密度を算出して品質を評価したところ、生産性の悪いチームは総じて品質も悪かった。

## 評価から得られたマネジメントのノウハウ

新技術に対して不慣れなメンバが多いチームは、フレームワークＦの習熟のための工数がかかり、生産性が期待したほど上がらなかった。新技術習熟のための体制、作業（ＷＢＳ）の重要性をプロジェクト完了報告書に記載した。

# 今回の活動について

## 評価

プロジェクト全体としては生産性、品質ともに向上したたため、おおむね成功したと考えている。

## 今後改善したい点

今後はプロジェクトのリスク管理方法についても完了報告書に残すように改善したい。また今回行った取組の評価・分析手法や完了報告書の記載項目を共有する。

以上